

スズメバチの巣の駆除について

町では、住民の方々に危害を及ぼす恐れのあるスズメバチの巣の駆除を行っています。駆除の対象となるスズメバチのことでお困りの場合には、環境保全課までご連絡ください。

●駆除の対象

スズメバチの巣のうち

- ・住宅(外壁・軒下・天井裏)や納屋、庭木に出来た巣
- ・通学路など、人通りがある場所に出来た巣

●注意事項

対象の場合は、町から駆除業者に連絡し駆除・調査を行います。なお、対象外の場合や、個人で先に駆除を行った場合は、町が駆除費用を負担することはできませんのでご注意ください。

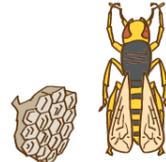
スズメバチの見分け方

■スズメバチの特徴



- ・巣はマール模様様の球型(作成途中はとっくり型)
- ・身体が大きい。最大で4cmにもなる。

■アシナガバチの特徴



- ・巣はシャワーヘッドのような形。
- ・足が長く、フラフラ飛び、素早くない。

ごみ分別大辞典

分別で間違いやすいごみ

環境保全課へいただくごみの分別についての、お問い合わせ件数が多いものをいくつかご紹介いたします。ごみの処理に掛かっているお金も、皆さんからいただいた貴重な税金です。「分ければ資源、混ぜればごみ」。この言葉を思い出しながら、日ごろのごみ分別を行いましょう。

●燃やすごみになるもの



●特定品目



※品目ごとに袋を分ける必要があります。



輝く人権

●問い合わせ

大津町役場人権推進課人権推進係
☎096(293)0863

■6月1日は「人権擁護委員の日」です。

全国人権擁護委員連合会では、人権擁護委員法が施行された日を記念して毎年6月1日を「人権擁護委員の日」と定め、地域住民の中で人々の基本的な人権を擁護する活動に積極的に取り組んで来ています。

しかし、いまだに生命・身体の安全に関わる事象や不当な差別などの人権侵害が起きています。

特に、いじめや虐待などにより、子どもが命を落とすといった痛ましい事案が依然として後を絶ちません。またインターネット上での誹謗中傷や差別を助長するような情報の発信は、同じような書き込みを次々と誘発し、取り返しのつかない重大な人権侵害につながり、決してあってはならないものです。さらに、部落差別、ハンセン病回復者とその家族に対する偏見や差別など、さまざまな人権問題があります。

加えて、多様な人々がお互いに連携し、支え合う共生社会を実現するためには、「心のバリアフリー」を推進し、障がいのある人や外国人、性的マイノリティに対する偏見や差別を解消していくことが求められています。

このように、人権をめぐる課題は尽きませんが、まずは、お互いの違いを認め合い、相手の気持ちを考え、思いやることのできる心を育むことが大切です。

人権は、人が人として豊かな人生を送る上で最も大切な権利です。自分だけでなく、全ての人の人権が尊重されなければなりません。国の内外を問わず、人々がお互いに人権を守ることによって明るい社会をつくっていきましょう。

■大津町には次の人権擁護委員が在籍しています。

- 津留 武芳さん (杉木)
- 樋口 良久さん (陣内)
- 松本 晴美さん (室)
- 緒方 郁子さん (室)
- 菊池 英二さん (室)
- 小西 秋美さん (大林)

■「みんなの人権110番」

人権擁護委員が人権相談にあたります。相談は無料、秘密は守られますので、お気軽にご相談ください。

みんなの人権110番

☎0570(003)110
最寄りの法務局につながります。



おおづのしごと

大津町企業連絡協議会

vol.56

ジャパンマテリアル株式会社 熊本事業所

ジャパンマテリアルグループは、半導体・液晶工場に不可欠なライフラインを支える技術者集団です。



熊本事業所 全景(令和4年11月開設) 中核工業団地内

わが社は、半導体の製造工程で不可欠な特殊ガス・超純水・薬品に関連するインフラ事業、動力・空調を含めたライフライン管理を一括で請負うトータルファシリティマネジメント(TFM)を中心に事業展開しております。さらに顧客工場の中心部に関わる半導体製造装置の保守・メンテナンス、セカンダリパーツの製造・販売等の技術サービスを提供しております。大津町に事業所を開設することで、半導体工場向けの支援拠点として機能され、菊陽町に進出した大手半導体企業をはじめとして九州地域に立地する半導体工場の活性化と発展に貢献して参ります。



熊本事業所所長 田中 宏典さん



【企業概要】

- 所在地 大津町大字高尾野272-15
- 業種 配管設計施工 / 特ガス販売 / 技術サービス
- 従業員数 JMグループ連結：1658名、単体：446名
- 事業内容 エレクトロニクス関連事業
- 連絡先 ☎096(234)7728

ホームページはこちら▶



CROSSING CULTURES vol.20

オースティンが日本の文化とアメリカの文化を比較して紹介する「CROSSING CULTURES」第20回となる今回は「アメリカの夏休み考え方」についてご紹介いたします。

アメリカの子どもたちは皆、夏休みを楽しみにしています。アメリカの学校の夏休みは5月末から8月初めまで、約2カ月半続きます。この間、難しい高校の授業でもない限り、宿題が出ることはほとんどないので、生徒たちは自由に好きなことをすることができます。このため、多くの親は夏休みの間に子どものために計画を立てなければなりません。なぜなら、アメリカでは通常、少なくとも13歳以上になるまではあまり家に一人で留守番させないからです。アメリカには各州に法律があり、州によっては8歳から14歳くらいの年齢までは家に一人で留守番させないところもあります。映画でサマーキャンプがよく出てくるのもそのためです。私の出身地では、夏休みに親戚の家に泊まったり、祖父母の家に行ったりするのが普通でした。日本に来て一

番驚いたのは、会社や仕事でも夏休みがあることを知ったことです。アメリカでは、大人になると夏休みに追加で休みをもらうことはなく、時には休日でも働くことになります。私は、大人の夏休みやアイデアをとっても楽しんでます。仕事と生活のバランスを取ることが大切だし、夏休みはリラックスするいい方法だと思います。私の夏の思い出は、弟と一緒にDVDレンタル店に行ったことです。私たちは映画を無制限にレンタルできるカードを持っていたので毎日通っていました。私は今でも時々、子どもの頃の夏休みを思い出してしまいます。

